



人の世に熱あれ 人間に光りあれ!!

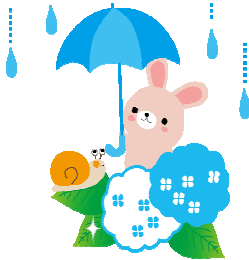
発行人 牧坂秀敏・小宮 豊

人権相談員便り [結い]

あなたの人権は保障されていますか？ 一人で悩まずにお気軽にご相談ください。

閉ざしてはならない若者の未来。若年介護者があなたの身近で声を上げられずにいませんか？

「若年介護者」って、
知っていますか？



◆若年介護者 17万人以上

これまで、介護に関わるさまざまな問題を「結い」でも取り上げてきました。「結い」38号では、働き盛りの世代で毎年10万人が介護離職している実態にもふれました。しかし、実は、もっと深刻な事態がまったく可視化されることもなく、進行していることが浮かび上がってきました。

6月17日に放映されたNHKクローズアップ現代「介護で閉ざされた未来～若者たちをどう支える～」は、これまでほとんど取り上げられることさえなかった家族介護する若者に焦点を当てています。番組の趣旨を次のように伝えています。

「去年、国の調査で、家族の介護を担っている15歳～29歳の“若年介護者”が、17万人以上に上ることが明らかになった。少子化や核家族化・ひとり親家庭の増加などにより、介護を子や孫に頼らざるを得ないケースが増えている。

『若年介護者は年長の介護者と比べ、多くのものを犠牲にし、問題が多い』と専門家は警鐘を鳴らす。中退や進学に支障をきたす学生の介護者。就業者の場合、若者の介護休職に対して理解が乏しいため、離職するケースが多く、さらに介護離職がハンデとなって次の就業機会が閉ざされるケースもある。若年介護者は、貧困と隣り合わせにあるとの指摘もある。

若者に特化した支援がない日本に対し、イギリスでは18歳未満の若年介護者を“ヤングケアラー”と位置づけ、介護と学業・仕事との両立支援

などに取り組んでいる。日英を見ることで若年介護者の現状と対策について考える。」

◆介護する若者たちの悩み

若年介護者という言葉をはじめて聞く方もいるでしょう。番組では、10代から親や祖父母の介護に携わってきた女性や男性、若年性認知症の母親（50代）の介護で仕事を続けることができなかつた男性など、否応なく選択をせまられながら希望を持って生きていこうとする若者たちの姿がありました。いや、今は希望の光などみえない若者もいるかもしれません。

彼らの共通した悩みは、情報をどのように入手すればいいのか分からないので「情報が無い」、また「友だちやだれにも相談できない」、「勉強や仕事との両立が難しい」、「将来のビジョンが描けない」などです。10代から20代。その後の人生を決めていく大切な時期です。そのときに、多くの時間を介護に費やさざるを得ないわけです。

愛する家族のために必要な介護を引き受け、介護する日々を「無駄なことではなかった」と、涙ながらに言い切る彼ら彼女らの真っ直ぐなまなざしが痛いほど胸に突き刺さります。

介護保険制度がスタートして14年。「介護される」人への支援は曲がりなりにも充実してきましたが、年々深刻化する「介護する」人へのケアや支援といったものは皆無に等しいのが現状です。

◆国を上げて取り組むイギリス

一方、イギリスではどうでしょうか。1980年代末から、18歳未満の介護者を「ヤングケアラー」と位置づけて、支援を行っています。同国

の2001年の国勢調査によると、18歳未満の人口の2%に当たる17万人のヤングケアラーがいるといいます。ところが、2011年、英国放送協会（BBC）が行った独自調査では、政府の公式調査の4倍、英国全体で70万人と推計されます（月刊介護保険情報、2011年1月号より）。

支援の中で重視しているのは、家族の中にヤングケアラーがいないかどうかを、福祉の専門職が確認することです。もし見つければ、負担が過重になっていないか検討し、学校に対してもヤングケアラーのサポートを行います。教師がヤングケアラーへの理解を深めることができるように情報を提供します。ヤングケアラーを支援する組織が全国にあり、仲間同士で交流も行われています。

番組では、そうした支援によって、11歳のヤングケアラー（女性）が認知症の父親を母親と一緒に介護しながら、快活な学校生活を過ごしている様子が描かれ、また「父親のような病気を治せる医者になりたい」と勉強する姿もありました。ヤングケアラーが人間的にも大きく成長しています。決してマイナスではなく、プラスに転化していくシステムがほんとに必要だと思います。

さきほどの英国放送協会が独自調査結果の発表と同時に組んだ特集番組での話を補足します。

「調査結果から、精神病や薬物またはアルコール中毒の家族の情緒面でのケアを担っている子どもが少なくないと推測される。そうした子どもたちは、「父親がまた自傷するのではないか」、「母親が酔いつぶれてはいないか」と絶え間ない心労に晒されている。しかし、国の調査では親が回答するために、彼らの存在は数字に反映されなかったのではないかと若年介護者支援団体は指摘しています。そして、若年介護者を発見し支援につなげるために、学校も家庭医も、もっと意識をしっかりと持つ必要があると訴えています。

ちなみに、英国では若年介護者の平均年齢は12歳とされています。

◆若年介護者(当事者)の訴えが政府を動かす！

さらに、番組特集の一環として、若年・こども介護者らとキャメロン首相の面談も行われました。「サーシャ・トマスさん（16）は、7歳の頃から

多発性硬化症の母親の介護と家事全般を担ってきた。現在は3年前に関節炎で退職を余儀なくされた父親にも介護が必要となっている。両親の介護で自由に家を空けることすらできない現状で「私のような子どもは、どうすれば大学に進学することができるのですか」とサーシャさんが首相に問うと、アイシャ・ベリンジーさん（16）も地方自治体による介護者支援の予算カットを止めてほしいと訴えた。

重症障害のある息子を去年亡くしたばかりのキャメロン首相は、家庭環境のために大学進学が阻まれるようなことがあってはならないと答え、予算の削減が求められる中、予算の決定権はあくまでも自治体にあるが、介護者支援への支出は長期的に見れば支出削減につながるとの見解を示した。

なお英国の連立政権は同日、介護者のレスパイトのため今後4年間で400万ポンドの投入を発表。25日には介護者支援チャリティのカンファレンスで講演したケア・サービス大臣のポール・バーストウ氏が、連立政権の介護者支援施策の枠組みを発表し、新たに介護者を発見すべく家庭医の啓発と研修に、今後4年間で600万ドルの予算を約束した。」と報じています。

◆介護する若者の掘り起こし、可視化を

日本においては、若い介護者同士が情報交換をするなどの動きがはじまったのはつい最近です。

ケアラー（介護者）の支援に取り組む一般社団法人「日本ケアラー連盟」（東京）が昨秋若い介護者が抱える課題について考える会を開いたのが、きっかけで広がり始めたといいます。

イギリスの動きをみても、介護者を支援する法制度を確立すると同時に、やはり当事者が声をあげていくことがなによりも大事です。しかし、声を上げたくても上げられない状況に置かれている実態をまず掘り起こしていくことでしょうか。

イギリスにおける若年介護者支援で重視しているのが、「当事者の掘り起こし」でした。

私たち自身がその実態を知ることからはじまります。そうすれば、何ができるのか、どんな課題があるのか、身近なことでできることは何があるのか。介護する若者を孤立させないために。